

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立上荻野小 学校

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 黒田 環

学校教育目標	学校経営の方針
自ら学びを拓き しなやかな心と体で 共に生きる社会を創ろうとする子どもの育成	○探求し表現する力の育成 ○自立した集団の形成 ○安心・安全の保障と健やかな心身の育成

今年度の重点目標

・自ら学びに向かう姿勢を養い、学力の充実を図る ・自分も他人も大切にしようとする態度の育成 ・健康で安全な生活を自主的に実践する児童の育成

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
地域の教育力を生かす取組について	1・2・3	大豆プロジェクト、「ぼうけんのもり」週間、あそび隊 キャリア教育講話等	全学年で大豆プロジェクトに関わり、栽培や収穫以外の体験もできた。大豆畑での活動を通して、地域の保育園との交流もできた。協力者の力を借りながら、食育や地域との交流において本校の特色ある活動になっている。猛暑の時期の活動が制限されることが収穫量に影響してしまう課題がある。あそび隊、ぼうけんのもり週間の活動では、今年度から学校運営協議会委員と協働で児童の見守りを行っている。	大豆プロジェクトについては、次年度は総合的な学習の時間との関連の仕方を見直し、より児童が主体的に学ぶ活動に改善していく。
校内支援体制について	2	児童教育相談・アンケート 生活アンケート 支援教育	こころスマイル支援員やスクールカウンセラー、教育相談コーディネーターと担任が連携して、児童の様子の把握や居場所づくりを進めることができた。特に、「相談室」の活用は登校に不安を抱える児童にとって大きな存在となっている。学カステップアップ支援員による「チャレンジ」(取り出し個別支援)も学習のサポートを行う上で欠かせない取組である。	支援体制の構築は進んでいる。それらを最大限に活用するためには、職員間のコミュニケーションが欠かせない。より一層連携を取りやすい環境づくりを進めていきたい。
学力向上について	1	校内研究の推進 指導法に関する職員研修 学力・学習状況調査結果の分析	校内研究における授業研究を重ねて、児童の学習実態の把握と授業改善に努めることができた。ICTの活用や体育実技の職員研修を通して、有効な指導法の共有もできた。学状の分析を実施し、実際に問題を解きながら、本校児童の現状と課題、授業改善案を検討した。	次年度は総合的な学習の時間について校内研究を進めていく。地域との関わりや主体的な学習、教科横断的な視点をさらに充実できるようにしたい。
地域・家庭への情報発信について	3	学校ホームページ 学校だより	学校ホームページを毎日更新することができた。学校だよりは記事を書く行事や担当を計画的に分担し、教育活動の様子を地域・家庭に発信することができた。学校評価(保護者アンケート)では9割以上の保護者が学校からの情報発信を評価している。	内容の充実と職員の業務負担とのバランスを取りながら、効率的・効果的に発信を続ける体制を維持していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

昔あそびや大豆プロジェクトなど、地域の方と触れ合う機会を設ける活動がよい。とてもあたたかい雰囲気为学校だと感じている。自然豊かな環境とそれを活かした教育ができています。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度も保護者や地域の方々からの変わらぬ理解と支援を受け、児童が主体となるように行事や地域の力を借りての地域協働活動を実施することができた。今後も、児童の実態や保護者・地域の考えを大切に、児童が人と関わることの楽しさや活動することの喜びを味わうきっかけをつくり続けていきたい。